



Cisco UCS Director Express for Big Data のインストール

この章は、次の項で構成されています。

- [VMware vSphere での Cisco UCS Director Express for Big Data のインストール, 1 ページ](#)
- [デフォルト パスワードの変更, 4 ページ](#)
- [ライセンスの更新, 4 ページ](#)
- [システム リソースの予約, 5 ページ](#)
- [最大パケット サイズの変更, 5 ページ](#)
- [Shelladmin によるネットワーク インターフェイスの設定, 6 ページ](#)

VMware vSphere での Cisco UCS Director Express for Big Data のインストール

Cisco UCS Director リリース 5.5 OVF ファイルには、Cisco UCS Director Express for Big Data リリース 2.1 が含まれています。



- (注) OVF 導入には VMware vCenter を使用することを推奨します。VMware vCenter のバージョン 5.x 以降がサポートされます。OVF 導入ウィザードは、IPv4 アドレスのみをサポートします。IPv6 が必要な場合は、OVF を導入してから、shelladmin オプションを使用して IPv6 アドレスを設定できます。
-

はじめる前に

VMware vSphere または vCenter に接続するには、管理者権限が必要です。



(注) DHCP を使用しない場合は、IPv4 アドレス、サブネット マスク、デフォルト ゲートウェイの情報が 必要です。

- ステップ 1** VMware vSphere クライアントにログインします。
- ステップ 2** [ナビゲーション (Navigation)] ペインで、Cisco UCS Director を導入する [データセンター (Data Center)] を選択します。
- ステップ 3** [ファイル (File)] > [OVF テンプレートの導入 (Deploy OVF Template)] を選択します。
[OVF テンプレートの導入 (Deploy OVF Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [ソース (Source)] ペインで、次のいずれかの手順で OVF ソース ロケーションを選択します。
- ロケーションを参照し、ファイルを選択して [開く (Open)] をクリックします。
 - ローカル エリア ネットワーク上の URL から導入します。FQDN (完全修飾ドメイン名) を IP アドレスまたはドメイン名に置き換えて、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** [OVF テンプレートの詳細 (OVF Template Details)] ペインで、詳細情報を確認して [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 6** [エンドユーザ ライセンス契約 (End User License Agreement)] ペインで、ライセンス契約を参照して、[同意する (Accept)] をクリックします。[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 7** [名前とロケーション (Name and Location)] ウィンドウで、次を実行します。
- a) (任意) [名前 (Name)] フィールドで VM 名を編集します。
 - b) [在庫場所 (Inventory Location)] 領域から、Cisco UCS Director Express for Big Data が導入されている在庫場所を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- (注) 前のステップでデータセンターを選択した場合、オプション b は使用できません。
- ステップ 8** [ホスト/クラスター (Host/Cluster)] ペインで必要なホスト、クラスター、またはリソースプールを選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 9** [ストレージ (Storage)] ペインで、Cisco UCS Director Express for Big Data VM ファイルを保存するロケーションを選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 10** [ディスク形式 (Disk Format)] ペインで、次のいずれかのオプション ボタンを選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- [シック プロビジョニング (Lazy Zeroed) (Thick Provisioned (Lazy Zeroed))] 形式：シック形式で即座にストレージを割り当てます。
 - [シック プロビジョニング (Eager Zeroed) (Thick Provisioned (Eager Zeroed))] 形式：シック形式でストレージを割り当てます。このオプションを使用してディスクを作成する場合、時間がかかることがあります。

- [シンプロビジョニング形式 (Thin Provisioned)]: データをディスクに書き込むときに、必要に応じてストレージを割り当てます。

ステップ 11 [ネットワーク マッピング (Network Mapping)] ペインで、該当するネットワークを選択して [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 12 [プロパティ (Properties)] ペインで、次の情報を入力し、[次へ (Next)] をクリックします。

- ルート パスワード
- Shelladmin パスワード
- 管理 IP アドレス
- 管理 IP サブネット マスク
- ゲートウェイ IP アドレス

(注) ルート パスワードとシェル管理者パスワードが設定されていない場合、デフォルト値が使用されます。

管理 IP アドレスと管理 IP サブネット マスクは 0.0.0.0 に設定され、デフォルトで DHCP を使用します。

ステップ 13 [完了前の確認 (Ready to Complete)] ペインで、選択されたオプションを確認して、[完了 (Finish)] をクリックします。

ステップ 14 VM で性能を発揮できるだけの十分な vCPU とメモリがあることを確認します。

ステップ 15 VM の電源を投入します。

(注) [完了前の確認 (Ready to Complete)] ペインの [導入後に電源オン (Power on after deployment)] チェック ボックスがオンになっている場合、アプライアンスは導入後に自動的に電源がオンになります。

ステップ 16 アプライアンスが起動したら、表示されている IP アドレス Cisco UCS Director Express for Big Data を、サポートされている Web ブラウザに転送し、[ログイン (Login)] ページにアクセスします。

ステップ 17 [ログイン (Login)] ページでは、ユーザ名の admin とログインパスワードの admin を入力します。

(注) この初回のログインの後、admin パスワードを変更します。

ステップ 18 メニューバーで、[管理 (Administration)] > [ライセンス (License)] を選択し、[ライセンスキー (License Keys)] タブをクリックします。

ステップ 19 [パーソナリティの管理 (Manage Personalities)] をクリックします。

ステップ 20 [パーソナリティの設定 (Personality Configuration)] ダイアログ ボックスで、必要なパーソナリティのチェックボックスをオンにします。

必要に応じて、[UCSD] または [Big Data]、あるいはその両方のパーソナリティをオンにできます。

ステップ 21 [送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 22 デフォルトの shelladmin クレデンシャル (たとえば、shelladmin/changeme) を使用して Cisco UCS Director VM のコンソールにログインし、選択したパーソナリティ (Big Data) を適用します。

- a) [Cisco UCS Director Shell] メニューから [サービスの停止 (Stop Services)] を選択し、Enter キーを押します。
 - b) Enter キーを押してメインメニューに戻ります。
 - c) [Cisco UCS Director Shell] メニューから [サービスの開始 (Start Services)] を選択し、Enter キーを押します。
 - d) Enter キーを押してメインメニューに戻ります。
 - e) [終了 (Quit)] を選択します。
-

デフォルトパスワードの変更

初回のログイン後に、管理用のデフォルトのパスワードを変更します。

-
- ステップ1 メニューバーで、[管理 (Administration)] > [ユーザとグループ (Users and Groups)] の順に選択します。
 - ステップ2 [ユーザ (Users)] タブをクリックします。
 - ステップ3 デフォルトのパスワードを変更する管理ユーザを選択します。
 - ステップ4 [パスワードの変更 (Change Password)] をクリックします。
 - ステップ5 [パスワードの変更 (Change Password)] ダイアログボックスで新しいパスワードを入力し、もう一度確認のためにパスワードを入力します。
 - ステップ6 [保存 (Save)] をクリックします。
-

ライセンスの更新

はじめる前に

圧縮されたライセンスファイルを電子メールで受け取った場合は、展開して、ライセンスファイル (.lic) をローカルマシンに保存します。

-
- ステップ1 [管理 (Administration)] > [ライセンス (License)] の順に選択します。
 - ステップ2 [ライセンス キー (License Keys)] タブをクリックします。
 - ステップ3 [ライセンスの更新 (Update License)] をクリックします。
 - ステップ4 [ライセンスの更新 (Update License)] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

- .lic ファイルをアップロードするには、[参照 (Browse)] をクリックして基本ライセンスの .lic ファイルへ移動し、.lic ファイルを選択して [アップロード (Upload)] をクリックします。

ステップ 5 [送信 (Submit)] をクリックします。
ライセンス ファイルが処理され、更新が正常に行われたことを示すメッセージが表示されます。

システム リソースの予約

最適なパフォーマンスを実現するため、「[Minimum System Requirements for a Single-Node Setup](#)」に記載されている最小システム要件よりも多いシステム リソースを Cisco UCS Director Express for Big Data のために予約することを推奨します。



(注) システムリソースの予約方法についての詳細は、VMWareのマニュアルを参照してください。

- ステップ 1** VMware vCenter にログインします。
- ステップ 2** Cisco UCS Director Express for Big Data の VM を選択します。
- ステップ 3** VM をシャットダウンします。
- ステップ 4** VMware vCenter で [リソース割り当て (Resource Allocation)] タブをクリックして現在のリソース割り当てを表示し、[編集 (Edit)] をクリックします。
- ステップ 5** [仮想マシンプロパティ (Virtual Machine Properties)] ペインで、リソースを選択して新しい値を入力することで、リソース割り当てを編集します。
- ステップ 6** 新しいリソース割り当てが設定されたことを確認します。

最大パケット サイズの変更

Cisco UCS Director Express for Big Data データベース クエリのデフォルトの最大パケット (クエリ) サイズは4MBです。より大きいサイズが1つ以上のポッドで必要となる場合は、最大パケット サイズの設定を 100 MB に増やすことをお勧めします。たとえば、大きいオープン オートメーション モジュールのインポートには、通常、より大きいパケット サイズが必要となります。



(注) Multi-Node の設定の場合は、この設定をインベントリ データベース ノードとモニタリング データベース ノードで実行します。

- ステップ 1** shelladmin で、[Root でログイン (Login as Root)] を選択して、Cisco UCS Director Express for Big Data にログインします。
- ステップ 2** /etc フォルダに移動します。
- ステップ 3** my.cnf ファイルを開き、max_allowed_packet パラメータを探します。
- ステップ 4** max_allowed_packet パラメータの値を max_allowed_packet=100M に変更します。
- ステップ 5** my.cnf ファイルを保存します。
- ステップ 6** shelladmin で、次のように、すべてのノードの Cisco UCS Director Express for Big Data サービスを停止して再開します。
- [サービスの停止 (Stop services)] を選択します。
 - すべてのサービスが停止していることを確認するには、[サービスのステータスを表示 (Display services status)] を選択します。
 - ノードのすべてのサービスが停止した後、[サービスの開始 (Start services)] を選択します。

Shelladmin によるネットワーク インターフェイスの設定

この手順は任意です。

- ステップ 1** 次のクレデンシャルで Cisco UCS Director Express for Big Data VM コンソールにログインします。
- ユーザ : shelladmin
 - パスワード : changeme
- shelladmin にログイン済みでデフォルトパスワードを変更している場合は、上記パスワードの代わりにその新しいパスワードを使用します。
- ログイン後に [shelladminパスワードの変更 (Change shelladmin password)] を選択してデフォルトパスワードを変更できます。
- ステップ 2** [ネットワークインターフェイスの設定 (Configure Network Interface)] を選択します。
- ステップ 3** Do you want to Configure DHCP/STATIC IP [D/S] プロンプトで、次のどちらかを入力します。
- DHCP が有効である場合、D を入力します (IP アドレスが自動的に割り当てられます)。
 - スタティック IP を設定するには、S を入力してから、次のプロンプトで設定するインターフェイスを選択します。その後 IPv4 または IPv6 を選択するオプションが表示されます。続いて、選択された

インターフェイスと IP のバージョンの確認が行われます。[Y] を選択して続行します。次の詳細を入力します。

- IP アドレス
- ネットマスク
- ゲートウェイ
- DNS サーバ 1
- DNS サーバ 2

ステップ 4 プロンプトが表示されたら、承諾します。
